

**オオクチバス** (サンフィッシュ科)

**学名** : *Micropterus salmoides salmoides*

**別名** : バス, ブラックバス

**大きさ** : 全長 50 cm

**特徴** : 口が大きく, 上顎の後端は目の後縁の中央から後ろにある。背鰭の前半(棘条部)と後半(軟条部)は僅かに繋がる。体色は背面が灰緑色で不規則な暗色の斑点をもち, 体側に暗色の太い縦帯が走る。近縁種のコクチバスとは, 口の大きさや体色などで識別できる。産卵期は5~7月で, ふつう砂礫底に産卵床を作り, オスが卵と仔魚を保護する。泥底でも切り株などに産卵床を作ることがある。動物食性。

**国内の分布** : 日本全国

**県内の分布** : 霞ヶ浦水系や利根川水系, 那珂川水系, 久慈川水系など各地の湖沼・河川に生息。霞ヶ浦では1975年に確認された。

**県内での生態** : 霞ヶ浦では1985年頃から生息量が急増したが1990年頃から減少した。理由は明らかではない。

**備考** : 原産地は北アメリカ。日本には1925年にアメリカ合衆国オレゴン州産の個体が神奈川県芦ノ湖に移入されたのが始まり。



写真. 産卵床を保護するオス。

その後, 1970年代から意図的な放流などで全国各地の河川や湖沼に分布するようになった。霞ヶ浦水系は全国有数のバスフィッシング・フィールドとして有名。外来生物法では特定外来生物に指定されている。

**主な文献** :

久保田次郎 (1997) 霞ヶ浦北浦におけるオオクチバス・ブルーギルの最近の漁獲状況について. 茨城内水試調査研究報告, 33: 17-32.

自然環境研究センター編 (2008) 日本の外来生物. 平凡社.

野内孝則・荒山和則・富永 敦 (2008) 茨城内水試研究報告, 41: 47-54.